

# 海藻と海草

増殖部 田 沢 伸 雄

以前、若い人の論文中に「筋線維」と書いてあったので、これは「筋纖維」の誤りでないかと指摘したことがあったが、今朝の新聞に「線維が化学変化」という見出しで、皮膚の老化についての記事が載っているのをみた。読んでいるうちに、先に指摘した「筋纖維」は「筋線維」と書いてもよいのだろうか、ふと疑問に思えてきたので、息子から最新の国語辞典や漢和辞典を借りて調べてみたが、「線維」という字はどこにも載っていないかった。やはり新聞の「線維」も「纖維」の誤りと思われる。

ところで、海に生えている植物を一般に「カイソウ」と呼ぶが、これには「海藻」と「海草」の両方があるということはあまり知られていないようだ。新聞などに「コンブな

どの海草は」と書いてあるのを見受けることがあるが、コンブやワカメなどの「カイソウ」は「海藻」で、これを「海草」と書くのは誤りである。「海藻」というとアオノリやアオサなどの緑藻類、コンブやワカメなどの褐藻類、アサクサノリやテングサなどの紅藻類を指す。これらの海藻は陸上の草と異って、種子をつくらず胞子で殖え、維管束（俗に纖維と呼ばれているもの）は無い。一方、「海草」は陸上の草のように花が咲き、種子をつくり維管束の有る海中に生える種子植物を指している。

我が国の沿岸に生育する「海草」には七属十五種が知られているが、なかでもスガモとアマモは分布も広く、北海道の沿岸でも多く見られる。どちらもショウブの葉を細長くし

たような植物だが、スガモは外海に面した岩礁の上に匍匐茎をはびこらせて生育するのでこれが繁茂すると岩礁の上に砂がたまり、コンブなどの海藻が着生しなくなるので漁民から嫌われている。アマモは比較的波の静かな内湾で海底が砂泥質のところ<sup>に</sup>生育している。スガモとアマモを区別するには、このような生育場所の違いによるほか、スガモの葉の上部の“へり”に小さな鋸歯があり、さわるとザラザラした感じがするが、アマモにはこのような鋸歯がないので、触感だけで簡単に見分けることができる。

とば”、正しい”文字”を用いるべきである。日本人である我々<sup>は</sup>もつと日本の”ことば”日本の”文字”を大切にしたいものだ。

(一九七五・九・七 記)

文字にはカタ仮名やヒラ仮名のように文字そのものに意味のない表音文字と、漢字のように一字一字にそれぞれ意味のある表意文字とがある。表音文字だけで文章を綴る場合は——コンピュータから打ち出されるカタ仮名だけの文章のように——発音通り書くだけで簡単だが、文章の意味は通じ難い。これに漢字を加えると意味は通じやすくなる。ところが、漢字はその文字のもつ意味を考えずに用いると内容の異ったことを表現してしまうことがしばしばある。“ことば”も“文字”も“人の心”を相手に伝える方法だと思いが、この心を正しく相手に伝えるには正しい”こ